

大豆栽培管理情報（培土・除草剤散布）

令和5年6月 日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

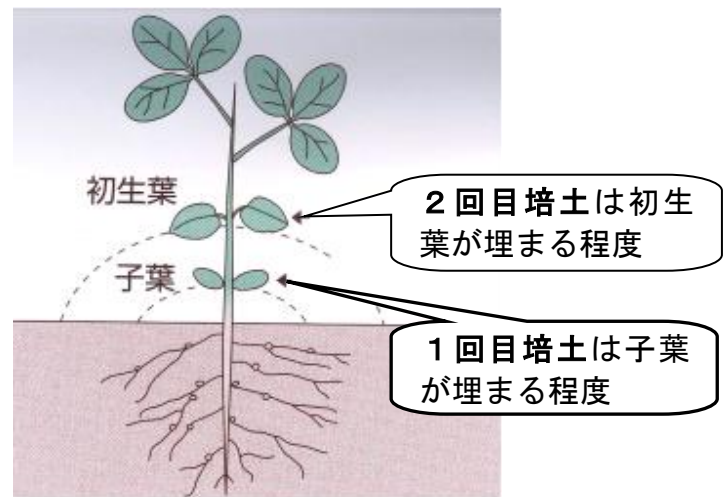
培土は適期に2回行い、株元までしっかりと土をかけましょう！

1 培土の時期と高さ

- 1回目培土は、本葉2～3葉期（播種後20～25日頃）に、子葉が埋まる程度に実施。
- 2回目培土は、本葉4～5葉期（播種後30～35日頃、1回目培土の10日後）に、初生葉が埋まる程度に実施。

培土の効果

- ① 雑草の生育を抑える。
- ② 倒伏を防ぐ。



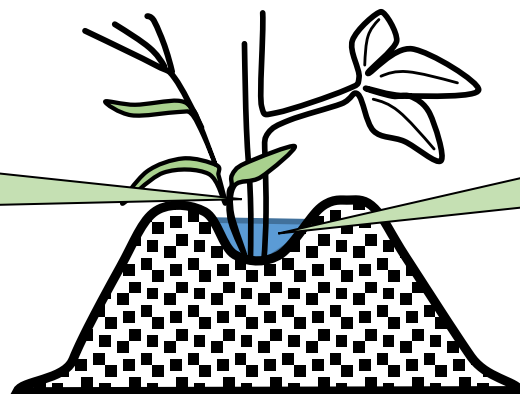
2 培土作業の留意点

- 培土板の調節と耕うん爪の点検を行い、土の上がりをするため、ほ場が乾いている時に作業を行う。
- 培土後は、培土でできた溝を額縁排水溝や深く掘り下げた排水口にしっかり連結し、溝に水がたまらないようにする。

こんな培土はダメ！

① 株元に土がかからず、雑草が残る

② 凹みに水が溜まって湿害を助長



3 除草剤の散布

除草剤は、雑草の発生状況に応じて適切に散布しましょう。

培土で雑草の発生が抑えきれない場合は、早めに除草剤を散布しましょう。

●除草剤の使用方法

薬剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	散布量 (/10a)	総使用回数	使用上の注意点
ポルトフロアブル	1年生イネ科雑草 (スズメカササグを除く)	雑草生育期 (イネ科雑草 3~10 葉期) 但し、収穫 30 日前まで	雑草茎葉散布 又は 全面散布	200~300ml 希釈水量 50~100ℓ	1 回	・イネ科雑草発生後に使用 ・散布前後の低温寡照で生育抑制のおそれがある
大豆バサグラン液剤	1 年生雑草 (イネ科を除く)	大豆2葉期~開花前 (雑草生育初期~6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで	雑草茎葉散布 又は 全面散布	100~150ml 希釈水量 100ℓ	1 回	・ヒユ科、アカザ科、トウダイグサ科には効果劣る ・著しい高温が続く場合は薬害を助長するので使用を避ける
		大豆の生育期 (雑草生育初期~6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで	畦間雑草茎葉散布	300~500ml 希釈水量 100ℓ		・ヒユ科、アカザ科、トウダイグサ科には効果劣る
バスタ液剤	1 年生雑草	雑草生育期 但し、収穫 28 日前まで	畦間処理	300~500ml 希釈水量 100~150ℓ	3 回以内	・非選択性除草剤なので、大豆にかからないよう十分注意
		雑草生育期 (本葉5葉期以降) 但し、収穫 28 日前まで	株間処理			

※除草剤を散布する場合は、使用基準を守り、適期に使用しましょう。

※畦間に使用する除草剤は大豆にかからないように注意しましょう。

難防除雑草（帰化雑草等）に対する除草効果（目安）

草種	茎葉処理剤			
	選択性	非選択性		
	大豆バサグラン液剤	バスタ液剤 (畦間・株間)	ザクサ液剤 (畦間)	ラウンドアップマックスロード (畦間)
帰化アサガオ類	▲（種間差あり）	○	○	▲（種間差あり）
ヒユ類	▲（種間差あり）	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲（種間差あり）	○	○	○

注1) ○：効果が高い ▲：効果が劣る

注2) 登録内容（適用、使用方法等）を確認して使用する。また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように散布する。